

活動報告書

報告者氏名:渡邊 崇 所属:茨城県立北茨城特別支援学校 記録日:2015年 2月27日

【対象児の情報】

○学年

高等部第3学年

○障害名

Aさん:知的障がい グルコーストランスポーター1欠損症候群



○障害と困難の内容

- ・言葉が不明瞭である。話し言葉は二語文程度である。
- ・手に緊張があり、細かい操作が苦手である。鉛筆で書く時に力が入ってしまい、不随意運動が起こる。
- ・言葉で伝わらない時に黒板や掌に書いて伝えようとする。相手に伝わらないと判断した時は、諦めてしまうことがある。

【活動目的】

○当初のねらい

「相手に伝わる手段を選んで、自分の意思や気持ちを伝えることができる。」

上記の目標を達成するために二つの視点から iPad を活用していく方針である。

第一に「現在を伝える」視点から DropTalk やメモ帳アプリの活用を通して、困ったときの依頼や報告などのコミュニケーションを補償する。また、音声読み上げ機能と同時に本人にも発声を促す。

第二に、「過去の体験を伝える」視点から「写真」アプリや「瞬間日記」のアプリを使用することで自分の経験や体験を他者に伝える。「瞬間日記」で写真とコメントを書き、週末に持ち帰って保護者に伝える。また、休日の様子を写真や日記で記録して、月曜日(休みの場合は週始めの登校日)の朝の会で発表する機会を設定する。

○実施期間

平成26年5月19日～平成27年2月27日

○実施者

渡邊 崇

○実施者と対象児の関係

学級担任



【活動内容と対象児の変化】

○対象児の事前の状況

自分の伝えたいことを言葉で伝えようとするが、言葉が不明瞭で他者に伝わりにくい。また、言葉で伝わらない時は黒板やホワイトボードに書いて伝えようとするが、他者が読み取りにくい文字を書く。伝えたいことを伝えるには時間がかかり、他者に伝わらないと判断した時には、諦めてしまうことがある。伝えたい思いを多く内包しており、伝えたいのに伝わらないもどかしさを抱えていた。

○活動の具体的内容

(1)「現在を伝える」視点 DropTalkHD



<分類カテゴリと使用場面>

「要求」	休み時間
「依頼」	移動教室など
「報告」「発表」「販売」	作業学習(週2回)

・DropTalkHD を選んだ理由は、①キャンパスが複数あることにより、場面別
に作ることができること、②アイコンを登録できること、③伝えたい順番に
アイコンをタップするという操作性、④キャンパスのアイコンの数は実態に
応じて変更できること、の四点である。

第1期「要求」平成26年5月20日～23日

・修学旅行期間中の空港での待ち時間やホテルでの部屋で過ごした時間
(夕方～夜) に実施した。

・「Droptalk」の操作に慣れるために、本人の好きな Youtube を見る時に「Youtube」「おねがいします」と伝えてから取り組むようにした。

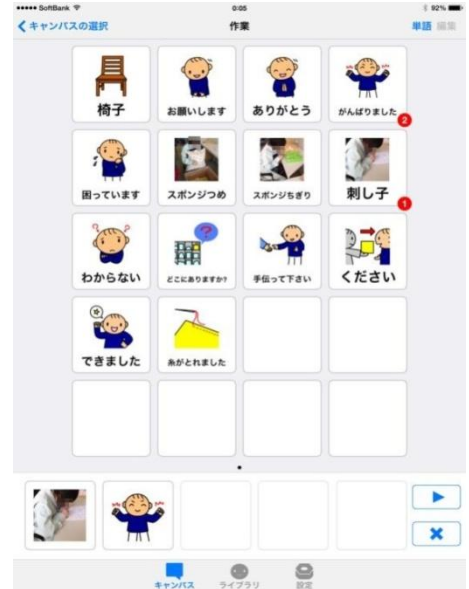
・1回につき、Youtube の閲覧時間10分と約束を設定し、1日に1～2回の頻度であった。

第2期「依頼」「報告」「発表」「販売」平成26年5月26日～平成27年2月

・「依頼」場面は、本人の歩行時にふらつきがあるため、移動教室の場合に教室にあるひじかけ付のイスを運ぶ場面に行った。本人が移動教室の場面で「Droptalk」を使用し、友達に「イス」「おねがいします」と二語文を作り、言葉で伝えてからアプリを使用した。主に作業学習中に行い、週2～3回程度実施した。

・「報告」「発表」は、作業学習(週2回水曜・金曜)の場面で実施した。本人が「○○」「がんばりました」、「○○」「おねがいします」などの二語文を組み立てて、言葉で伝えてから「Droptalk」を使用し、友達に向けて発表したり、教師に対して報告したりした。

・「販売」は、文化祭に向けて作られたカテゴリであり、販売の練習や当日の販売において使用した。



「イス」「お願いします」依頼場面



文化祭での販売場面

(2)「過去の体験を伝える視点」 瞬間日記



<分類カテゴリと使用場面>

- ・「授業」「行事」「家庭」のカテゴリで日記を作成
- ・週末に持ち帰り、週明けの月曜に「家庭」の日記を公表
⇒2学期からは質問の時間を作り、生徒同士のやりとり場面を設定した。

- ・タイムライン形式で表示されるため、①1日に複数の日記を書くことができる、②日記を書かない日があっても表示される日記は書いたものに限られることから、自己肯定感を損ないにくく継続しやすいと考えられるため本アプリを採用した。
- ・本人または他者が「カメラ」アプリで撮影した写真をもとに、思い出しながら、文章を組み立てる活動を行った。①写真を選ぶ、②文章を書くという手順で実施した。
- ・学校行事での思い出の写真が中心となり、使用頻度にばらつきがある。修学旅行中や生徒会選挙の時には作成数が多く、1日に3～7個の日記が作成された。
- ・iPad を毎週金曜に家庭へ持ち帰っていた。家庭での日記作成に関しては、作成頻度にばらつきがあり、1日に2～3個程度の頻度で作成された。



朝の会で発表している様子



友達に説明している様子

○対象児の事後の変化



(1)「現在を伝える」視点 DropTalkHD について

- ・自分の伝えたいアイコンをタップし、その順番に音声が出るという一連の操作手順が分かり、自分で操作して相手に伝えることができた。また、アプリの特徴としてアイコンをカスタマイズできることから選択肢となる写真をアイコン化することで、自分で選ぶことができた。
- ・「要求」の場面、「依頼」「報告」「発表」の場面のキャンバスを、アプリの画面切り替えを使い、使用場面に応じて自分で操作し、相手に伝えることができた。また、自分の言葉で伝えてからアプリを使用するというルールを課したことで、他者に確実に伝わる安心感から本人も自分から伝えることに抵抗を感じなくなったと推察される。



(2)「過去の体験を伝える視点」瞬間日記について

- ・iPad を活用することで、自分が撮影した写真や動画を友達や教師や家族に伝えたいという思いが強くなり、自分からiPad を他者に見せて紹介する場面が多く見られるようになった。行事への参加意欲が高まり、行事の写真撮影するようになり、振り返って日記を作成することができた。
- ・発表場面では、日記を音声機能で読み上げるだけでなく、日記の内容に応じて写真を指さして言葉で説明する場面

が見られた。写真に写っている家族を指さして、「これがうちの妹です。初公開です。」と発表した。

・瞬間日記の内容に関しては、「〇〇を頑張った」「〇〇を撮影した」という事実のみ記述だけではなく、自分なりの印象が強かった場面においては、「なんか、モデル見たいな写真を取られました・・・。」や「美術でウェイターの絵を書きました、自分ではよく出来た方だと思います、頑張りました。」など内面の記述も見られるようになった。内面の記述を含んだ日記は、「私はそれを買いたいと思ったんですが、お母さんにダメと言われ、諦めようとは少し思いましたけど、私は諦めようとは思いません。」のように、自分の意思を明確にした記述も見られるようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ・相手に「伝わる」手段をもったことで、もっと相手に「伝えたい」と意欲を育むことができたのではないか。
- ・振り返る中で、自分の内面を整理するツールになったのではないか。

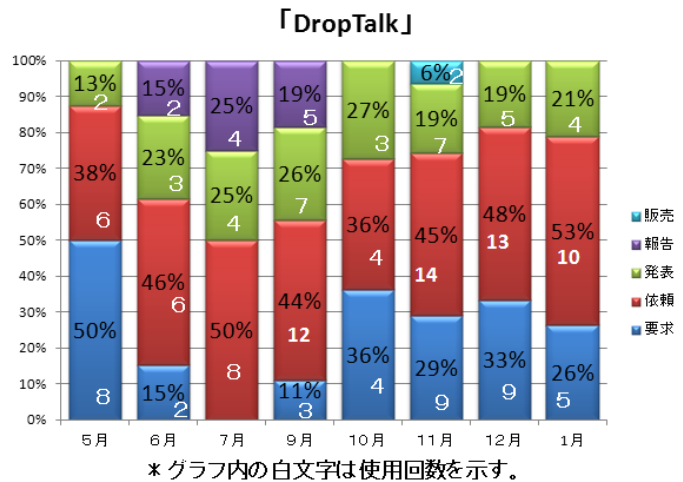
○エビデンス(具体的数値など)



(1) DropTalk

観察・記録に関しては、産業現場等における実習の期間に入ったことで、実習先に iPad を持ち込むことができず、実践ができなかった状況にあるため、6月後半・10月中旬は記録ができなかった。そのため、DropTalk の使用数において6月分・10月分が減少する傾向が見られる。

9月以降「報告」カテゴリが0になった要因は、二つの作業内容からやりたい活動を選択して「〇〇」「おねがいします」として伝える活動として取り入れていたが、9月中旬からは、二つの作業を実施する方針となったため0となる。



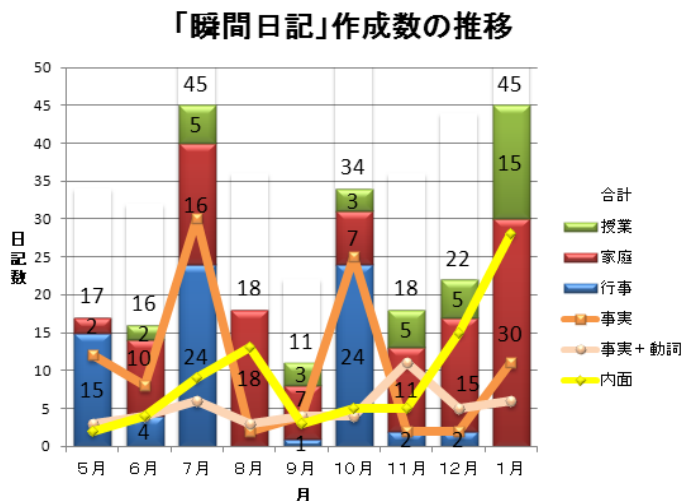
(2) 瞬間日記

期間中作成された日記は226個である。

観察・記録に関しては、6月後半・10月中旬に、産業現場等における実習の期間に入ったことで、家庭での記録のみとなる。7月・10月に「行事」カテゴリが急増したのは、実習の報告会の時に写真を撮影したことが挙げられる。自分で撮影した写真にコメントを残したかったようで、「報告会の写真を撮りました(パート1)」のように撮影した写真24枚の日記を作成した。そのため、折れ線グラフで【事実】が急増している。

また、7～8月、1月にかけて「家庭」カテゴリ急増するのは、夏休み・冬休みに入り、家庭に持ち帰ったことが要因となる。8月は、部活に所属せず、登校日もなかったため、「行事」「授業」での日記の作成は0件であった。

【内面】が12月、1月にかけて急増するのは、家庭で日記を作成したこと起因する。好きなアニメや音楽などについての意見や余暇のカラオケなど自分が伝えたいと思う体験があったからである。



「瞬間日記」折れ線グラフの分析視点
 【事実】 「〇〇をした」
 【事実+動詞】「頑張った」「楽しかった」などの動詞が日記に1つ
 【内面】 自分の考えや思い

○その他エピソード(画像などを含めて)

国語の授業でiPadを活用した授業に取り組んだ。生徒6名教師2名による授業で、Aさんも生徒に含まれている。題材は「十二支のおせち料理」である。iPadについては、(a)文字の見えにくさによるつまづきを補償すること、(b)友達と一緒に取り組んできた成果を記録する役割を設定し、印刷することで活動への参加を実感できるようにしたことについて使用した。

iPad を活用するにあたって、(a)つまづきの補償、(b)役割・実感の二つの支援の方向性を確認できたことに意義があった。国語の授業づくりにおいては、①ストーリー性を意識した授業、②小集団で相互にかかわりあいながらの体験活動、③二つの役割を体験して振り返ることの三つの視点の重要性を再確認することができた。

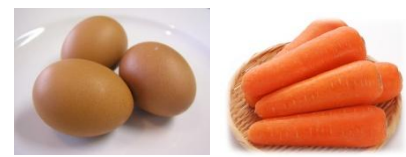
学習展開

- 1 はじめのあいさつをする。
- 2 本時の活動内容を知る。
- 3 スクリーンの準備をする。
- 4 パワーポイントで表示された物語(動物の登場場面のみ)を読む。
(iPadで読むページの写真を撮影し、拡大して読む)
- 5 グループ活動をする。
 - (1)担当の役割のページを確認する。
 - (2)グループを決めて、確認する。**3名ずつのグループ**
 - (3)準備をする。
 - (4)担当の活動に取り組む。**2回実施する。**
 - ・牛【集める。】「野菜」「魚」などの条件で6枚選択し、猿に渡す。
 - ・猿【料理する。】材料カードを見て、その材料カードから作れる料理カードを選択し、酉に渡す。
 - ・酉【並べる。】ホワイトボードに事前に1枚の料理カードを貼っておく。その料理カードを起点に料理名・料理の特徴と上下左右の条件でカードを置く。

例:「かまぼこの左に黄色の料理を置いてください」
- (5)おせち料理の写真を撮る。(iPadで写真を撮影する)
- 6 本時のまとめをする。
 - (1)学習の振り返りをする。**比較した感想を記入**
(iPadで撮影した写真をワークシートに貼る)
 - (2)次時の活動を予告する。
- 7 終わりのあいさつをする。



<牛> 集める



<猿> 料理する



<酉> 並べる

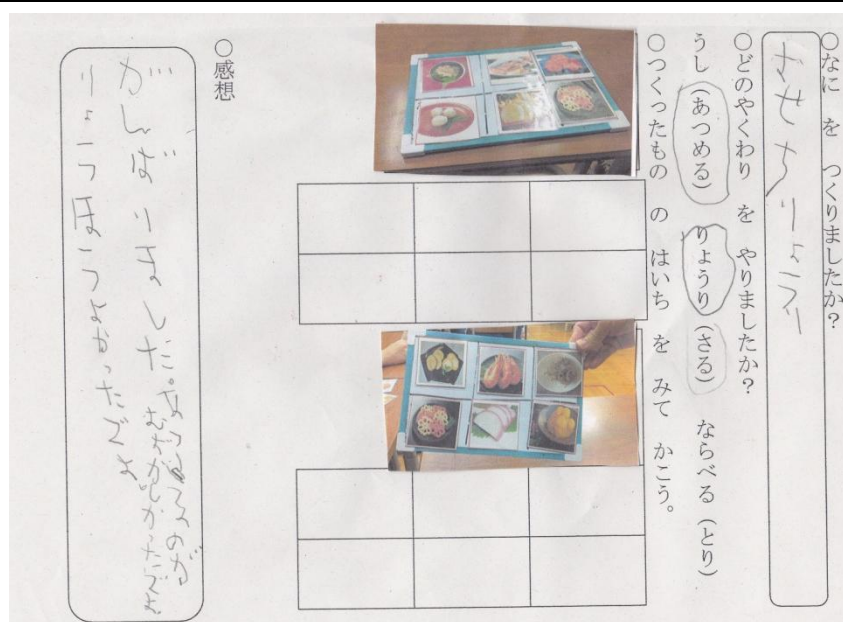


対象児 A 撮影の写真

* は補足説明 (太字)は iPad 使用場面



本人が iPad で撮影している様子



本人記入のワークシート

「がんばりました。あつめるのがむずかしかったです。りょうほうよかったです。」

火 11:26
9

2014年12月9日



両方良かったです。頑張りました。集めるのが難しかったです。

瞬間日記

【今後の展望について】

卒業に向けて保護者が1月にiPadを購入したことで、現在はDropTalk, 瞬間日記のアプリ導入, アクセシビリティの設定など学校で取り組んできた成果を引き継げるように移行している段階である。

DropTalkで取り組んできた「依頼」「報告」「発表」「販売」の項目については、今後進路先との話し合いを進めていく予定である。「要求」については、家庭で自分の思いを伝える手段として今後も継続していく。さらに、コミュニケーションの手段を広げるという観点から痛みを訴える手段(頭が痛い, お腹が痛い)としての活用, 習慣形成の観点からスケジュール機能を忘れ物チェックリストとして活用(「リマインダー」で時刻を設定し, DropTalkでチェックする)を取り入れて, 現在指導を行っている。

瞬間日記についてはデータの移行が完了し、家庭用iPadで引き続き日記を書いている。学校の授業の振り返りや家庭での思い出を日記にする活動も家庭用iPadに移行している。また朝の会の発表は、家庭用iPadで行っている。

学校用iPadから家庭用iPadに移行するにあたって、学校用iPadで撮影した写真については、保護者の許可を得てgoogle+のアカウントを作成し、学校用iPadで撮影した写真を「google+」のアプリで閲覧できるようにした。さらに、家庭用iPadで撮影した写真も非公開フォルダに自動アップロードする設定を行い、クラウドに保存できるようにした。今後、写真をたくさん撮ることが想定されるためiPadの容量が圧迫される可能性があること、故障などによってデータの消失を防ぐことの二点からクラウド管理を提案し、保護者に承認して頂いた。

卒業後に向けて、保護者や進路先と連携し、iPadがAさんにとって生活を支えるツールとして活用できるようにしていきたい。